

令和7年度 中学生の「税についての作文」

柏税務署管内納税貯蓄組合連合会・柏税務署

東京国税局管内納税貯蓄組合連合会 優秀賞

納得されない税の使われ方

柏市立柏第四中学校 第3学年 渡辺 理紗

私達が人権を持ち経済に参加するとなると、必ず税を支払う義務が発生する。それは今育成している子供たちが担う事となる、未来社会への投資ともいえる。

税金の主とした使われ方は、公務員の俸給、インフラ・教育機関の整備、医療、介護、福祉などと、どれも巡りめぐつて私達のために使われる仕組みとなっている。だがそのうち、ごく少数ではあるが國民が納得しない使われ方があった。ここでは二つの事例をとりあげる。一つ目は新型コロナウイルスが流行した際に全世帯に配布された、「アベノマスク」についてである。感染拡大防止策に基づき五百四十三億円という金額が費されたが、配布されたマスクは子供には大きく大人には小さいなどしたうえ、変色、汚れ、虫や毛髪の混入、異臭などの不良品も見つかり、國民からは「ムダノマスク」「税金の無駄遣い」と揶揄された。これに対する私の見解は、マスク不足をいち早く解消するためとはいえ國民が納めた税金を國民に納得されない形で返したという、徹底が行き届かなかつた政策だと思った。もう一つの事例とは、「京アニ放火事件」についてである。これは事例として取りあげただけで、この事件に対し意見するわけではな

い。この事件はアニメ制作会社である京都アニメーションの第一スタジオが放火され、六十八人の死傷者を出した。その被告も全身火傷を負つたが、一命をとりとめている。治療費は公表されていないが、少なくとも数千万、場合によつては一億円を超える可能性もあると複数のメディアが報じている。被告は生活保護受給者であったため、治療費は原則として国と自治体が負担することとなる。すなわち税金なのだ。ここで疑問なのが、納稅者が汗水たらして働いて納めた税金が、何故この下衆のような者の治療費に使わなければならぬのか。勿論、事情聴取のため、今後このような犯罪者を増やさないためと間接的な好影響も多少はあるかもしれないが、私個人の意見としては誠実な納稅者に失礼であり、侮辱のようにも感じる。前提としてそのような意図がない事であるのは承知しているが、やはり國民の納めた税金は國民のために使つて欲しいのが切実な願いである。このように國民に不信感を抱かせる、不徹底な政策や望まない他人の治療に使用する税金は、私達から言わせてみれば本当に無駄遣いなのである。そこで私は、不当だと感じる税金の使い方に対して訴訟を起こせる制度の導入を望む。くどいようだが、國民が納めた税金は國民のために使われるべきであり、また政府の決定に意見する権利もあるはずで、必要なのである。

